

1 主題設定の理由

現在の学校教育では、個性の尊重が求められている。学習指導要領の中でも、「個性を生かす教育の充実」が求められており、確かな学びをはぐくんでいくには、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、「個に応じた学習」を行うことが必要であるとされている。学校において個に応じた指導・助言を行っていくことは、学習活動の場面だけではなく、生徒指導や、係・委員会活動、部活動や日常生活も含めた教育活動の全般にわたって、大変重要なことである。

教師が個に応じた指導・助言を行っていくためには、「生徒を見取る力」が大切となる。教師の「見取る力」が十分でない場合、事象の前後関係や周囲の状況を把握できないまま、目の前の表れだけで見取りを行ってしまうことがある。表れの背景となる思いや考えまでくみ取ることができずに、その行動だけを見取って指導・助言をしてしまうことがある。

今、目の前で廊下を走っている生徒を見掛けたとする。この場合、どんな声の掛け方をするだろうか。「　　、廊下を走るんじゃない。」と言うだろうか。「どこへ行くんだ？」あるいは「　　君、どうした？何かあったのか？」と声を掛けるだろうか。

生徒がある行動を示したとき、その行動に至るまでにはその生徒なりの思いや考えがあり、その結果が行動として表れる。また、一つの表れは単独で起きるものではなく、様々な背景や事象の結び付きの中で出てくるものである。廊下を走っている生徒にも何らかの理由があるはずで、それが単なる生徒同士のふざけ合いの場面ならば指導が必要であるが、「教室で誰かがけがをした。」という事情で教師を呼びに行く途中ならば、対応の仕方は変わってくる。

教師は個々の生徒について、多くの情報を保有し、それを活用していくことで、その生徒をより深く理解することができるようになる。しかし、教科担任制で教育活動を行っている中学校では、一人の教師が個々の生徒と向き合っている時間は非常に少ない。生徒の思いや考えを見取るには、その生徒の情報が余りにも少なく、十分に思いや考えを把握できない場合がある。また、学年部会の中で意見を交換し合う時間が設けられたり、「生徒理解研修」を持ったりして、生徒情報を共有しようとしているが、学校の運営上、それほど多くの機会を設定することは難しい。

また、若い教師が、経験年数の多い教師の深い観察力に触れたり、あるいは逆に若い教師の生徒に近い世代感覚からの見取りに他の教師が触れたりすることで、自分の見取りの幅を広げることは大切である。そのためにも、教師同士がお互いに情報を共有し、様々な視点から意見を交換することが必要である。

こうした問題点や課題を解決する方法の一つとして、校内LANを用いて生徒の情報を共有し、それを組織的、計画的に活用していけないかと考えた。この方法を用いれば、初めは入力等の手間はかかるものの、自分が見ていない時間の生徒の表れも含め、非常に多

くの情報を、多くの教師が共有することができる。さらに、情報を共有するだけでなく、その共有された情報を組織的、計画的に活用していく中で、教師は一人の生徒の表れを多方面からとらえ、より深くその生徒の思いや考えを把握することができるようになる。また、多くの視点に触れ、意見を交換することで、自らの視点に幅を持たせることもできるようになる。このようにして、教師の「生徒を見取る力」を高めることができれば、生徒は自分の表れがいつも教師に意識され、認められていることを知り、何事にも自信を持って取り組むことができるようになる。また、保護者に対しても、学年通信や教育相談など、様々な形で情報を発信することで、柔軟な連携を図ることができるようになる。以上の理由により、校内LANを活用し、教師の「生徒を見取る力」を高めることを目指す。

2 研究の目的

校内LAN上にデータベースを設置し、ネットワーク上のすべての端末から、生徒情報を入力・蓄積し、共有する。学校内の各組織、分掌がそれぞれの教育活動を進めていく中で、このシステムに蓄積された情報を、組織的な取組として活用していくことで、教師の「生徒を見取る力」を高めることを目指す。

3 研究の方法

(1) 「生徒を見取る力」についての考察及び生徒を見取る力を高めるための仮説の設定

文献研究及び先進的取組をしている学校の事例研究から、教師の「生徒を見取る力」について考察し、生徒を見取る力を高めるための仮説を設定する。

(2) 効果的な情報の蓄積ができるデータベースの作成

生徒の表れに対する教師の見取りをデジタルデータとして共有し、必要に応じて、閲覧・印刷したり、データを加工して活用したりすることができるようなシステムについて研究し、プログラムを作成する。

(3) 組織的な校内LANの運用

所属校では、教育計画に基づき、その時々に応じて、あるいは行事において、中心となる学校内の組織が決まっている。その組織が、自らのねらいを達成することを目標として様々な活動をする中で、組織的な取組としてシステムに情報を蓄積させ、共有された情報を活用していく。

(4) 仮説の検証

データベースに蓄積されたデータの分析及びアンケートの結果から、仮説を検証し、教師の「生徒を見取る力」を高めることができたか、取組の有効性を考察する。

4 研究の内容

(1) 「生徒を見取る力」についての考察及び生徒を見取る力を高めるための仮説の設定

教師が「生徒を見取る力」について自ら分析を行い、取り組む例として、関根正明氏の書籍の中で、「自分の色眼鏡」と名付けられた小学校教師の取組の事例が紹介されて

いる。その教師は毎日、児童の下校した教室で、「自分の色眼鏡」と名付けられたノートを開く。ノートには、クラスの児童の名前がページごとに書かれている。このノートに、自分が今日一日どんな話し掛けをしたか、どんな触れ合いをしたかを、児童ごとに記入していく。するとページが三種類に分かれてくるという。プラスのコメントで埋められていくページと、マイナスのコメントしか書かれていないページ、そして何も書かれていないページである。教師は自分の見取りを振り返ることで、児童を分け隔てなく見たつもりでいても、そうではなかったことに気付く（注1）。

校内LANを用いた生徒情報の共有、及び「生徒を見取る力」を高める取組としては、岐阜市立京町小学校と小牧市立小牧中学校の取組がある。京町小学校の取組は「よいとこみつけ」と呼ばれている。その基本は「一人一人が持つ個性の中から、その子にしかないよさを見つけ出し、その力を認めてほめること」とされている（注2）。京町小学校では、すべての教師が、気付いた児童のよさをデータベースに書き込んでいき、学校ホームページを中心にそれを積極的に発信していくことに取り組んでいる。

また、小牧中学校では、校内ネットワークにおいて、「学級日誌」「生徒指導」「いじめ・不登校」「保健室利用状況」といった情報を共有し、すべての教師が情報を把握することで教師間の連携を図り、「見取る力」を高める試みをしている（注3）。これらの取組を参考に、以下の仮説を立てた。

ア 仮説 集団の中にいる生徒の姿を見取る

人の表れは、周りの状況によって、見た目が同じ行動でも、違う意味を持つことがある。その生徒の表れをよりよく見取るためには、その子の置かれている状況から判断することが必要である。授業中の表れはもちろん、係・委員会活動、部活動や日常生活の様々な場面において、できるだけ多くの生徒の表れを共有し、役立てることによってよりよく生徒を見取ることができる。

イ 仮説 生徒の表れの背景となる過去の経験や体験の関係から見取る

人の表れは、その前後の経験や体験によって左右される。このシステムによって、昨日の様子、先月の様子などを知り、総合的に判断することによってよりよく生徒を見取ることができる。

ウ 仮説 自分の見取りと他の教師の見取りを比較する

表れを見取る側の教師にも、経験の差や、その表れに遭遇するまでの状況の違いがある。それによって、同じ表れを複数の教師が見た場合でも、受け取り方は違ってくる。自分の見取りを他の教師の見取りと比較することで、よりよく生徒を見取ることができるようになる。

の仮説に基づいた取組を行うことで、教師の「生徒を見取る力」が高められると考えた。

(2) 効果的な情報の蓄積ができるデータベースの作成

研究の手だてとして、情報を共有すること、そして、そこに共有された情報を組織的、計画的に活用していくことを考えた。そのために、校内LAN上にデータベースを置き

それを基盤としたシステムを考え、「よかった探し」と名付けた。これに必要な機能は、次の三つである。

- ・生徒の何気ない表れまで、項目別・内容別に記録し、データを蓄積できるようになっていること
- ・学級通信や通知票・調査書などの所見等で活用していくために、蓄積したデータを個人別・学級別・学年別、時期ごとに引き出せること
- ・情報を組織的・計画的に活用し、評価や発信をするために、データをエクセルファイルに書き出し、加工することができること

これらの機能を実現するために、まず、「よかった探し」のトップ画面を「入力」と「閲覧」に分け、さらに閲覧内容を日付や対象で選べるようにした(資料1)。

こうすることで、「日付(今日・昨日・期間)」と「対象(個人・学級・学年)」を組み合わせ

せて、自分の見たい情報が閲覧できるようになった。例えば、気になる生徒がいるときに、その生徒の最近の表れのデータを閲覧したり、自分が出張していた2日間に、学年や学級で何があったかを閲覧したりすることができるようになっている。

また、後で振り返りをしたり、分析をしたりするときに役立つように、入力画面では、「項目(学習・言語運動・健康・心理社会・生活進路)」と「内容(いいところ・気になるところ・してみたこと)」を選択入力し、そこに記事を書く、というかたちにした(資料2)。

さらにデータベースとしての機能だけではなく、情報交換の様子が記録として残せる機能(電子掲示板)や、セキュリティの向上のための、IDとパスワードによる認証機能を考えた。その他校務に必要な機能として、時間割の確認や、出張・年休時の自習指導の計画が簡単にできる機能などを附属させた。そして、それらの機能を一つのシステムとして、校内LAN上のすべての端末からアクセスすることができるようにした。

(3) 組織的な校内LANの運用

所属校では、教育計画に基づき、その時々に応じて、あるいは行事において、中心と

【資料1】よかった探しのトップ画面

期間	学級の間覧	学年の間覧	全校の間覧
今日	学年と紐を連んでください。(1学年) (詳細) (印刷)	学年を連んでください。(1学年) (印刷)	(印刷)
昨日	学年と紐を連んでください。(1学年) (詳細) (印刷)	学年を連んでください。(1学年) (印刷)	(印刷)
日付選択	学年と紐、閲覧したい日付を連んでください。(1学年) (詳細) (印刷)	学年、閲覧したい日付を連んでください。(1学年) (印刷)	閲覧したい日付を連んでください。(印刷)
全記録	学年と紐を連んでください。(1学年) (詳細) (印刷)	学年を連んでください。(1学年) (印刷)	(印刷)

【資料2】よかった探し入力画面

なる学校内の組織が決まっている。その組織が、自らのねらいを達成するために様々な活動をする中で、組織的な取組としてシステムに蓄積された情報を活用していった。その様子をまとめると、以下の表のようになる（資料3）。

【資料3】各組織の活動とねらい・仮説との関連

仮説	組織	期間	ねらい	校内LANの活用の方法
共通	全体	9月初旬	システムの使い方に慣れる。	まず一人一人の教師が1件の生徒のデータを入力する。特に記入上の制限や書き方は設定せず、自分の気付いた表れを自由に書き込んだ。
仮説+	学年部	11月初旬	学年部会での情報共有と意見交換の場面において、時間の有効活用と話し合い活動の充実を図る。	学年部会に向けて、学級担任の立場から、一人一人の様々な表れを見取り、よいことも、気になることも記入した。 情報共有と意見交換の場では、記入された1か月分のデータを打ち出し、読めば済む部分は読むだけで終わりとし、必要な部分だけを掘り下げて話し合いを持った。
仮説	全体	10月初旬	蓄積されたデータを校内研修で活用する。	各担任がデータを用いて所属校の研修のキーワードである「かかわり」をつくり出す場面を設定した。加えて、学期末処理として、今までの入力振り返りを図りながら、通知表の所見作成に生かした。 見取ることのできた生徒のよい表れを生徒・保護者に伝えることもできた。
仮説+	学年部	11月中旬	保護者との連携を図る。 学年・学級懇談会を持つ代わりに学級の様子を伝える学年通信を発行する。	11月の参観日は参観授業終了後、すぐに映画の上映会があったため、学級懇談会は行われなかった。 そこで、学級の雰囲気伝えることができるように、生徒の実名は出さずに、「この学級でこんなよい表れがあった、よい取組があった」といったことを伝える印刷物（A4一枚程度）を各学年で作った（資料4）。 ここでは、自分の担任している学級以外の子にも目を向けるよう意識した。
仮説	特別活動部	9月中旬 10月中旬	行事の中でのよい表れを、行事後の生活に生かし、次年度の行事の重点を考える際の参考とする。	9月の体育大会と10月の文化祭において、当日だけでなく、その前の準備や練習への取組、実施後の後片付けまで、すべての場面を通じて表れを入力する。 反省アンケートを校内LAN経由で入力し、入力と同時に振り返りをした（資料5）。

仮 説	学 年 部	12月 初旬	一人一人のよさを教育相談で伝えていくことにより、教師と保護者の連携がよりスムーズになることを目指す。	12月第3週の保護者面談日に向けて、すべての生徒のよいところを見付け、入力する活動を行った。担任を始め、教科担任、部活動・委員会顧問、清掃担当など、多くの教師の目で、見取った生徒の姿を保護者に伝えることができ、連携を深められた。すべての生徒に入力をするために、入力のない生徒に目を向けることで、ふだん気付くことのなかった生徒のよさに気付いたり、よさを発揮する場面を設定したりすることができた。
--------	-------------	-----------	--	--

【資料4】「よかった探し」への取組を伝える印刷物

<h3>「よかった探し」</h3> <p>K中生の悪い面ばかりが取りざたされる傾向にありますが、良い行いをしている生徒もたくさんいます。むしろその方が多いと思います。そんな生徒の良い面を積極的に探そう、という試みを職員全員で取り組んでいます。そこに書かれた記事からいくつかを紹介させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業で、気になることがあるとすぐに質問して解決しています。発表も積極的です。 ○授業の取り組みがよいです。家でも教科書の音読をととてもたくさんしています。 ○授業では、課題に対する自分の考えをもち、積極的に発表する。自分が間違った問題を繰り返し練習し、地道な努力を続けている。

注) 所属校の第1学年学年便り (平成19年11月22日発行より抜粋)

【資料5】体育大会反省アンケート

*ソーラン節	
番号	意見・要望
1	3年生よく頑張りました。
2	昨年までに比べて、全員が参加しているという演技であったと思う。最後の五段が無事に済んだときは、感激のあまり涙が出そうであった。
3	感動しました。3年生のパワーをあらためて感じました。
4	どの生徒も一生懸命踊っていました。最後の組体操も良かった。
5	プログラムの最後をかざるのにふさわしいものだったと思います。時間のない中、よく仕上がっていたと思います。
6	今年は隊形移動と最後のピラミッドが光っていました。法被作りは家庭科の先生の負担が大変だと思いますがなんとかならないでしょうか。(過去の法被をもらってキープしておくとか。)
7	体育科の先生方のご指導のたまものだと思います。法被も、「馬子にも衣装」ではなく、先生のご指導のたまものだと思います。
8	少ない練習時間でしたが、とても迫力のある演技でした。下級生にK中魂を引き継いでほしいです。

注) 体育大会実施後に校内LAN経由で行ったアンケートの集計画面(部分)

(4) 仮説の検証

教育相談直前の12月中旬まで、約3か月半の取組を行い、500件を超える入力が行われ、様々な活動で活用された。最終的に300人以上の生徒の表れをデータベースに共有することができた。

ア 仮説 集団の中にある生徒の姿を見取る

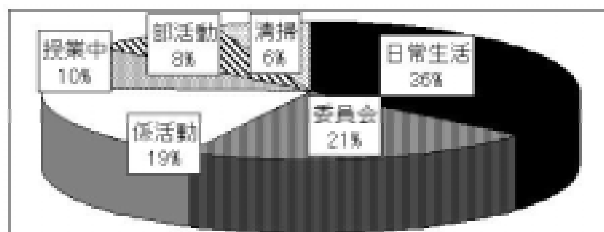
授業中の表れはもちろん、係・委員会活動や部活動・日常生活も含めた様々な表れを共有することを目的に取組を行った結果、多くの場面での生徒の姿を共有することができた(資料6)。

その中で、「ある行いをした生徒が、その時集団の中で、どのように考えていたのか」を推し量って書き込まれたデータをグラフ化した(資料7)。

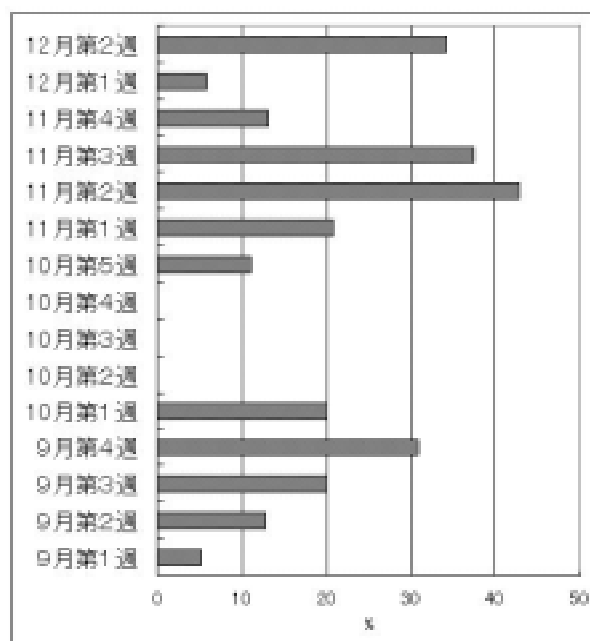
これらの書き込みは、「学年部会での情報の共有と意見交換の場面で、書き込まれたデータを活用する」という取組を11月に始めたころから割合を増していった。ここでは、学級担任の立場から、一人一人の様々な表れを見取り、よいことも、気になることも記入するという取組が進められた。

集団の中における生徒の行動の記録の例としては、中学校の3年間の体育科の授業で、初めて持久走を完走できたAさんと、その周りの生徒の様子について記録されたものがある(資料8)。

【資料6】表れの「見取り」が行われた場面



【資料7】書き込みの中の「生徒の思い」への言及



【資料8】集団の中における生徒の行動の記録

持久走の練習で、初めて完走し、走り終わった後がんばった自分に感激して泣いていました。まわりの生徒たちもその様子を見て、頑張ったね、と声をかけてくれました。次の時間も頑張って完走し、いい笑顔で教室に帰って行きました。

初めて持久走で完走したAさんに温かい声をかけてくれました。完走した事に感激して泣いている彼女に、頑張ったね、と優しく声をかけてくれて、自分も感激して泣いていたようでした。とっても思いやりのある子です。

このように、一人の表れだけでなく、周りにいた生徒の様子まで伝わってくるような書き込みも見られるようになった。

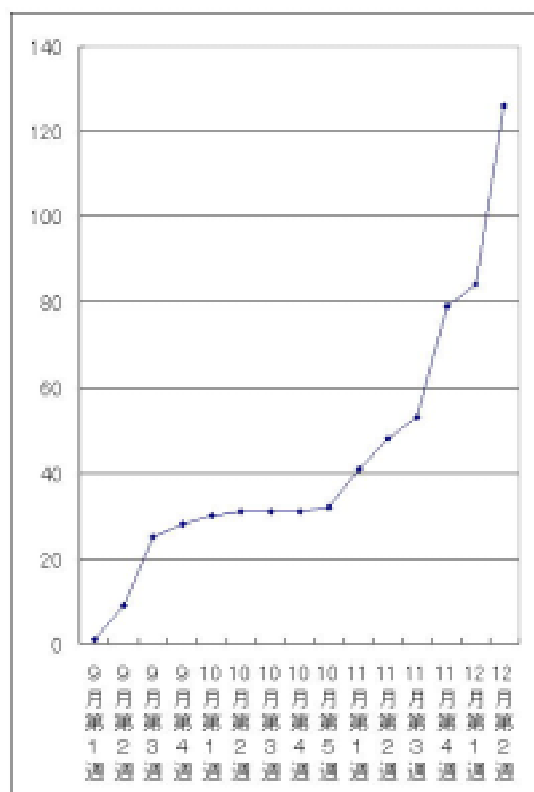
イ 仮説 生徒の表れの背景となる過去の経験や体験の関係から見取る

一人の生徒に対し、何人の教師から書き込みがあったかを調べてみると、複数の教師からの書き込みのある生徒がいる一方で、日数が経過しても書き込みがないままの生徒がいる。

基本的に、教師の入力件数が多い生徒は、班長、部長、専門委員長など、目につきやすい行動の多い生徒である。しかし、普段から目を引く子に混じって、「決して国語は得意ではありませんが…」とか、「全体の前で話すことは苦手だが…」というように、余り目立たない子のよさについて、複数の書き込みがされている例もある。

一人の生徒に対しての複数の書き込みが急が増えたのは11月に入ってからであり、3分の2がこの時の書き込みである(資料9)。

【資料9】複数の書き込みがあった生徒の人数



これは、学年部としての取組の中で、「学年部会での情報交換のために、学級担任の立場から様々な表れを記入しよう」あるいは、「教育相談日に向けて、すべての生徒のよいところを見付け、伝えていこう」とする活動が行われたときと一致する。この取組により、教師の意識が、普段気付きにくいような小さな表れや、目立たない生徒へ向けられるようになった結果であると考えられる。

一人の生徒についての複数の書き込みを追っていくと、経験を重ねていく中で変化していく生徒の様子をつかむことができる例もあった(資料10)。

【資料10】生徒の経験に伴う表れの変化

日時	書き込みの内容	記入者
9/21	野球の部活動で慣れないキャッチャーのポジションを自分なりにこなすために最大限の努力をしている。盗塁を刺せずに悔し涙を流していた。その後も練習に励んでいる。	学年主任
11/29	先日、部長会にて部活動のいいところ・悪いところの話合いをした。悪いところとして朝練習の終了が悪く、8:00までに教室に入っていない生徒が多く見られるとのことであった。翌朝から、活動場所に一番最後まで残り、終了時間を徹底しはじめた。	生徒指導主事
12/10	野球部の部長として、常にチームのことを考え、行動している。意識が高く、キャッチャーとしても成長著しい。頼りがいのある生徒になってきた。	学年主任
12/13	部長になってから3か月近く悩みながらも練習に試合に自分のポジションをこなしながら、なおかつ多数の部員を励ましたり叱咤したりしながら責任を果たしていた。	顧問

ウ 仮説 自分の見取りと他の教師の見取りを比較する

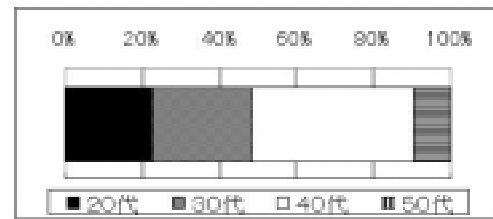
システム開始当初の予想では、若い年代の入力が先行すると思われていた。その理由は、若い年代の教師の方が、パソコンやソフトウェアの使い方に慣れており、データ入力も抵抗感なく行えると考えていたからである。ところが、9月の段階で、1か月間の教師の記入件数を年代別にグラフ化してみると、40代・50代の教師の書き込みの比率が高いことが分かった(資料11・12)。パソコン操作や入力の得意・不得意よりも、経験の差から来る観察力の違いが強く出ていて、経験年数の長い40代、50代の教師が生徒の表れをより速やかに見取っていることが分かる。

それから2か月が経過した11月における書き込み件数と、9月の書き込み件数を比較すると、記入件数自体の増加も著しいが、20代から30代の教師の書き込みの件数がぐんと増えていることが分かる(資料13)。これは、この期間に、特別活動部が主として動く体育大会や文化祭に向けての活動の中で、係・委員会活動や縦割り・学年での練習への取組、当日の活動の様子など、様々な場面で生徒の活発な活動が行われたことによる。その中で気付いたことを皆で書き込み、共有していく活動を通じて、教師が、自分自身の見取りと、他の教師の見取りを比較することができたために、より多くの見取りをすることができるようになった。

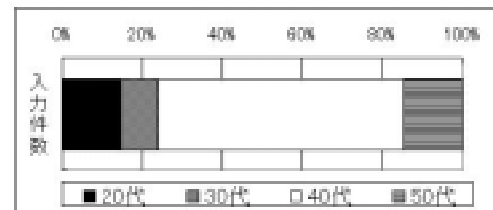
その結果、時間の経過とともに20代から30代の教師の書き込み数が増え、全体の中に占める比率も大きくなった。

12月の半ばに教師全員を対象にアンケートを行った(資料14)。その結果を見ると、「よかった探し」へ

【資料11】教師の年代構成



【資料12】年代別の記入割合(9月)



【資料13】教師一人当たりの平均入力件数

年代	9月(件)	11月(件)
20代	3.0	8.9
30代	1.6	5.1
40代	6.8	7.6
50代	7.0	1.3

【資料14】よかった探しに取り組んでの感想

いろいろな先生の見取りを見ることが、自分の生徒に対する視点の参考になった。	23
「よかった探し」への取り組みを通じて、より積極的に生徒を観察するようになり、気付きも増えたように思う。	21
気付きを手軽に記録として残せることは、大変便利だと思う。	20
文字の修正や、誤って入力したデータを削除することができないのは不便である。	19
ある先生の見取りを参考にして、自分の視点を増やすことができた。	18
一人一人の先生の気付きの違いから、多くの視点で、生徒の姿をより深く見る事ができた。	18
「よかった探し」のデータを教師みんなで共有することができた。	17
情報を一カ所で管理・閲覧できるので安全性が高く、安心して利用できる。	16
日常生活の場面でのあらわれを見付け、認めることができた。	16
目立たない生徒について、特に注意して観察したり、働き掛けを意図的に行ったりするようになった。生徒のあらわれを見取るという点ではそんなに変わっていないと思っている。	14
顔を合わせなくても情報がやりとりできるので、便利だった。	8
自分の書き込みがデータとして残ってしまうことには、不安がある。	5

注) 有効回答数 36

の取組については、「いろんな先生の書き込みを見ることが、自分の生徒に対する視点の参考になった。」「『よかった探し』の取組を通じて、より積極的に生徒を観察するようになり、気付きも増えたように思う。」「気付きを手軽に記録として残せることは、大変便利だと思う。」といった選択肢に をつけた教師が多かった。

教師が自分の見取りと他の教師の見取りを比較する中で、自分自身の「生徒を見取る力」を高めるということに対して効果的であるということの証になると考えられる。

「よかった探して、自分の気付かなかった一人一人のよさを知ることができている。自分の視野の狭さにも気付くことができた。」という感想を受け取った。

エ 仮説 により、見取る力を高めることができたか

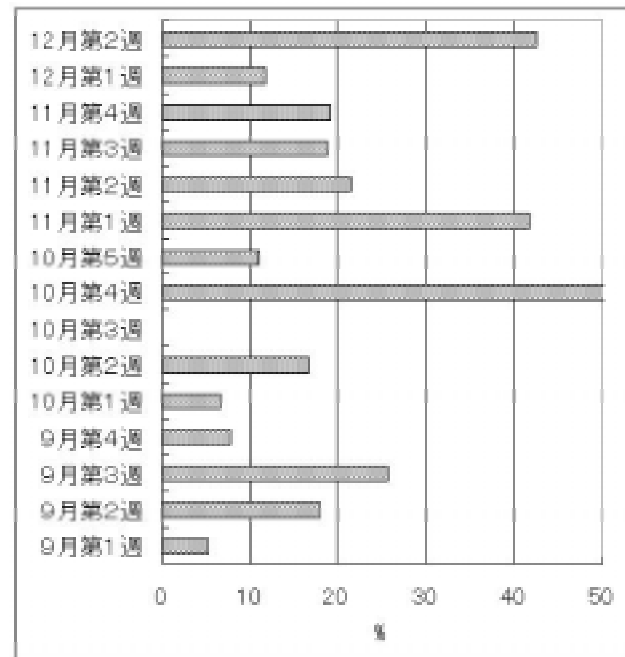
開始当初の書き込みは「君が の時間に××していた。」というように、事実のみを記入したものが多かった。

しかし、中には、その行動に対して、気付いた教師自身がそれをどう受け取ったのかが、評価として、あるいは感想として書き込まれているものがあった。

これらの書き込みは、11月に入り保護者との連携を図り、よさを伝えようとする学年部の取組が始まると割合が大きくなってきた(資料15)。

また、下に示す例のように、自分が見付けた生徒のよさを、他の教師や保護者に伝えようとする思いが、見付けた教師の評価として書き込まれるようになった。これは、教師の「生徒を見取る力」が高くなってきたことを示していると考えられる(資料16)。

【資料15】「教師の評価・感想」の出現割合



【資料16】見取った事実に対し、教師の評価が書き込まれている例

いままでなかなか発表しなかった彼女が、今日「魔王」の授業の音読大会で、自ら子供役のセリフを発表してくれました。みんなの雰囲気を変えてしまう程、上手に読んでくれました。先週の授業でも同じ活動をしたのですが、そのときには勇気を出せなかったようです。あれから1週間、練習していたのかな…と思い、好感が持てました。

基礎テスト前に、学級全体ができるように「昼休みに学習リーダーに教えてもらう時間を作りたい」と自ら申し出て、学級を動かした。問題を解決するためにどうしたらよいか常に考えていて、先を見通す力を持っている。

席替えにより、隣と上手にいかない席になって気持ちが荒れている生徒がいたとき、すぐに多くの生徒を集め、こうしようと次の一手を考え、学級全体が気持ちよく過ごせるようにするにはどうしたらよいかを考えることができる。

オ 生徒をより幅広く見取るための方策としての活用

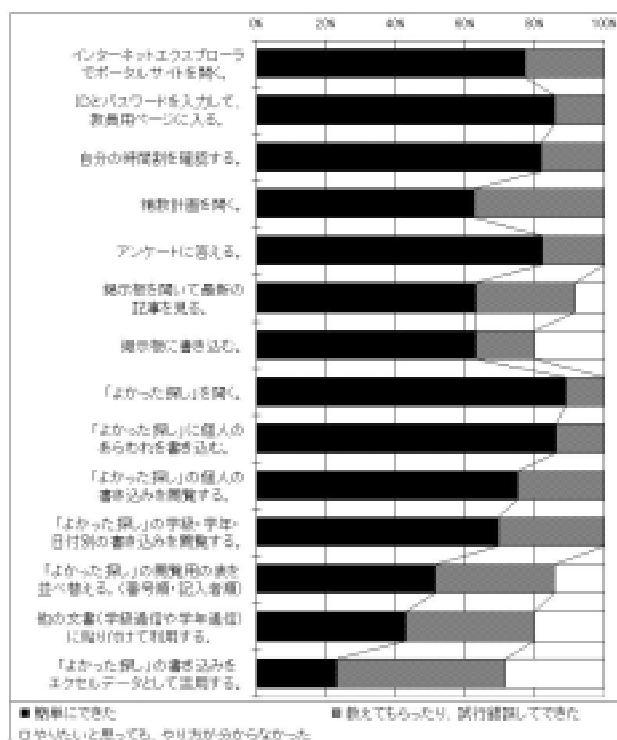
プログラムの操作の難易度を尋ねるアンケートでは、使用の頻度が多い操作については、ほぼ全員が「できる」と答えた（資料17）。「『よかった探し』の操作がパソコンに不慣れな私でも簡単にできるものだったのでよかったです。」というコメントもあった。

情報の共有という点では、このシステムはそう難しいものではないことが分かる。そこで、このシステムの利便性を生かし、さらに「生徒を見取る力」を高めていくことを考えた場合、特別支援教育での利用を考えていきたい。現在、所属校でも「個別の教育支援計画」

が作成され、特別支援教育の研修が進められている。特別支援教育の対象となる児童生徒の表れからその思いや考えを理解することは、その他の生徒と比較した場合、やはり多少の困難が予想される。そこで校内LAN上に個別の教育支援計画のファイルを共有しておけば、授業を担当した教師が気づきを書き込んでいくことで、よかった探しの情報を基に、リアルタイムで個別の教育支援計画を書き換えていくことができる。

このようにして、全校体制で特定の生徒についてより深く観察し、幅広く見取ることができるようになる。

【資料17】ポータルサイトの操作について



5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

教師の「生徒を見取る力」を高めるということについて、三つの仮説に基づいて取組を行い、結果を定性的・定量的に表すことができた。その中で、三つの仮説を検証し、校内LANを用いたシステムの有効性を明らかにすることができた。

(2) 今後の課題

ア 「校内LANによる情報共有」と「顔を合わせた話し合い」の有機的な結び付き

学年部会において、1か月分の書き込みを基に情報共有と意見交換の話し合いが行われたように、校内LANによる情報共有は、顔を合わせた話し合い・学び合い活動とは切っても切れない関係にある。デジタルデータとしての情報共有と、顔を合わせた話し合いをどのようにつないでいくか、もう少しやり方があったのではないかと今回

はあくまで顔を合わせての話合いを補うものとして取組を行ってきたが、その関連性を実際に明らかにすることができなかった。

イ 校内研修での活用

研究授業などの場合、授業案には、「生徒の実態」が書かれているが、ここに書かれている内容は、本時の学習をするに当たっての、その教科においての生徒の既習事項や考え方を表すものである。しかし、他学年の教師には、それだけでは生徒の実態がつかみにくい場合がある。このとき、授業の前に、授業を行う学級の生徒一人一人のデータを打ち出しておけば、観察すべき生徒を把握するにも、生徒の発言を分析するにも大変有効な資料となると思われる。このように、今回行った組織、場面以外にも様々な状況で活用していくことが必要である。

注

- 1) 関根正明著『教師の「気になる子」への関わり方』, 学陽書房刊, 1998年, 179-182ページ.
- 2) 井上志朗著『21世紀の学校IT革命 - 情報共有で子ども・教師・家庭の心をつなぐ - 』, 高陵社書店, 2001年, 144-162ページ.
- 3) 飯田年美(2006)「校内ネットワークの活用 - ITで学校が見える・仕事内容が変わる - 」, 平成18年度Eスクエア・エボリューション成果発表会資料, 財団法人コンピュータ教育開発センター, (<http://www.cec.or.jp/e2e/symp/18seikapdf/C2-D-3.pdf>, 2007.6.13)

参考文献

- ・阿部一義著『図解標準 最新ASPハンドブック Webデータベース&Webアプリケーション構築法』, 秀和システム, 2001.
- ・(株)アंक著『改訂版VBScriptポケットリファレンス』, 技術評論社, 2006.
- ・(株)アंक著『HTMLタグ辞典』, 翔泳社, 2007.
- ・青山円『Access97で作るイントラネット』, 自由国民社, 1997.
- ・堀田龍也・中川斉史編著『学校のLAN学事始 校内ネットワークがひらくこれからの学校』, 高陵社書店, 2004.
- ・古籟一浩著『ホームページつくりそのまま使える改訂新版 JavaScript例文活用辞典』, 技術評論社, 2001.
- ・飯田年美著『校内ネットワークの活用 - ITで学校が見える・仕事内容が変わる -』, 財団法人コンピュータ教育開発センター, 2006.
- ・池田明著『コンピュータ教育のバグ』, 日本文教出版, 2007.
- ・井上志朗著『21世紀の学校IT革命 情報共有で子ども・教師・家庭の心をつなぐ』, 高陵社書店, 2001.
- ・磯野康孝・蔵守伸一著『HTMLタグリファレンス』, ナツメ社, 1997.
- ・河野春夫著『Access2000Webデータベースプログラミング』, AI出版, 1999.
- ・小泉修著『図解でわかるデータベースのすべて』, 日本実業出版社, 1999.
- ・公文善之『ASPプログラムステップアップラーニング(入門編)』, 技術評論社, 2002.
- ・升屋正人著『ActiveServerPages構築術』, ソフトバンククリエイティブ, 1998.
- ・宮坂雅輝著『JavaScriptHandbook 4th Edition』, ソフトバンクパブリッシング, 2003.
- ・宮坂雅輝著『SQLハンドブック第2版』, ソフトバンククリエイティブ, 2005.
- ・西沢直木著『ASPによるWebアプリケーションスーパーサンプル』, ソフトバンククリエイティブ, 2006.
- ・大西貞憲・小牧市立小牧中学校著『正門からどうぞ - 学校を開く -』, for next, 2003.
- ・Peter Dyson著 トップスタジオ訳『IIS4.0パーフェクトガイド』, 翔泳社, 1998.
- ・斎藤康江著『学校IT Success Story みんなでつくる情報教室』, オーム社, 2001.
- ・酒井雄二郎・阿部友計著『Access2000操作ハンドブック』, ナツメ社, 1999.
- ・佐藤親一著『IIS4ASPスクリプティング』, オーム社, 1998.
- ・関根正明著『教師の「気になる子」への関わり方』, 学陽書房, 1998.
- ・スティーブン ハン著・トップスタジオ訳・河端善博監修『ADSI ASPプログラミング 次世代標準ディレクトリサービスAPI ADSI入門』, 翔泳社, 1999.
- ・生形洋一著『ASP実践プログラミング入門』, 技術評論社, 1999.
- ・梅原嘉介・小島孝夫著『Webデータベース構築入門』, 工学社, 2001.
- ・山田祥寛著『今日から使えるActiveServerPages2.0』, 秀和システム, 1998.
- ・山本森樹著『パソコンSQL絵とき基本用語』, オーム社, 1997.
- ・全国教育研究所連盟編『学校を開くeラーニング スキルアップに役立つ活用ガイド』, ぎょうせい, 2004.